

阿波市全庁評価シート 令和5年度実施事業対象

PLAN	No.	37	—	1	基本事務事業名	基本計画に基づく事業	事務事業名	基本計画に基づく事業	公的関与	3	シート作成日	令和6年6月28日	
	部局名	水道部			課名	業務課	主務課長名	吉成 永吾		シート作成者名	加納 一郎		
	事業区分	○ 1 ソフト事業		○ 3 経常的事務事業		○ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	□ 1 直営		□ 3 全部委託		
		● 2 ハード事業		○ 4 施設の維持管理		○ 6 内部管理事務・その他			☑ 2 一部委託		□ 4 補助等		
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了			
		基本計画(施策)		(6)水道・排水処理の充実				● 1 該当		平成 28 年 ~	令和 12 年	□ 期間設定なし	
		主要施策		(2)強靱な水道の構築				○ 2 非該当		根拠法令等	水道法		
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市民(上水道加入者)									
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	配水区域を再編するとともに、施設規模の適正化及び管路施設の耐震化等を実施することにより、効率的かつ災害に強い水道事業運営体制を構築します。									
			今年度	基本計画に基づく事業を継続して行います。									
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)												
	① 測量設計												
	② 工事発注・監理監督												
	③												
	④												
	⑤												
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標			
	阿讃山麓線配水管関連工事	施工済延長／計画区間延長 9,837m	%	目標		45	64	85	100				
				実績		43	65						
	小倉高区配水池築造工事	配水池3,000m ³ 、緊急遮断弁2基、配管工事、造成工事等	%	目標		65	100	100	100				
				実績		65	100						
	小倉高区配水池中継ポンプ施設築造工事	中継水槽、ポンプ2台、緊急遮断弁1基、配管工事、造成工事等	%	目標		—	45	100	100				
				実績		—	28						
	予算費目 会 計 水道事業会計 款 1 資本的支出 項 1 建設改良費 目 1 配水施設費												
DO			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考				
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円						
		県支出金	千円		千円		千円						
		地方債	155,600 千円		213,615 千円		434,600 千円						
		その他特定財源	156,100 千円		332,000 千円		200,000 千円						
		一般財源	28,831 千円		119,871 千円		190,361 千円						
		計(A)	340,531 千円		665,486 千円		824,961 千円						
	人件費(B)	正職員工数・経費	2,500 人	15,106 千円	2,500 人	15,149 千円	2,500 人	14,881 千円					
		会計年度任用職員職種											
		会計年度任用職員工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円					
全体事業費(A+B)		355,637 千円		680,635 千円		839,842 千円							

CHECK		チェック項目					一次評価		一次評価の説明		二次評価	
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。					☐ 少ない	☒ 大きい	給水区域の再編、施設の効率化等を推進し、市民生活に必要な不可欠な上水道の安定供給を維持するために必要な事業です。	☐ 少ない	☒ 大きい	
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。					☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある	
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。					☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。					☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない	
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。					☐ いえない	☒ いえる	給水区域の見直し、配水ブロック間の相互融通体制の強化、施設規模の適正化・簡素化を行うことで、災害発生等の緊急時における安定供給、効率的な施設運営が可能となり、有効性の高い事業です。	☐ いえない	☒ いえる	
		2. 事業内容のマネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。					☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる	
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。					☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない	
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。					☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる	
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。					☐ 目標に比べて劣っている	目標設定に対し、計画的に事業が推進されています。関係機関との協議等により、翌年度への繰越となっている工事等があります。	☐ 目標に比べて劣っている			
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。					☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない			
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。					☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している			
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。					☐ 十分達成している		☐ 十分達成している			
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。					☐ 高い	☒ 適当	施工箇所となる道路の整備計画等に合わせて事業を進めることで、コストの縮減や施工期間の短縮が図られています。今後も、市の関係部署、関係機関等と緊密な連絡調整により、なお一層の効率化が期待されます。	☐ 高い	☒ 適当	
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。					☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない	
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。					☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。					☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
ACTION	一次評価					二次評価						
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A	
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			
	当面の課題	昨今の資材価格の高騰、納期の遅れ等により、事業費の増加や工期の延伸が懸念されます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点					
	改革案と実行計画	建設部局等が実施する事業との連携を強化し、効率的に事業を推進するとともに、使用資材、工法等の最適化を図ることでコスト増加の抑制に努めます。					建設部局等の関連部署と、関係する事業計画について十分連絡調整を行いながら、施設整備、送配水管の布設工事等を施工し、早期の完了に向け事業を推進していきます。					
	委員会指摘事項											

PLAN	No.	37	—	2	基本事務事業名	老朽管布設替等事業	事務事業名	老朽管布設替等事業	公的関与	3	シート作成日	令和6年6月28日		
	部局名	水道部			課名	業務課	主務課長名	吉成 永吾	シート作成者名	加納 一郎				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(6)水道・排水処理の充実				☒ 1 該当		平成 17 年 ~	令和 年	☒ 期間設定なし		
		主要施策		(3)水道サービスの持続				☐ 2 非該当		根拠法令等	水道法			
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市民(上水道加入者)										
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	老朽管及び基幹管路において、計画的な管路の更新、耐震管への布設替工事を行い、有収率の向上に努めます。									
				今年度	老朽管等の布設替工事を継続して実施します。									
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 測量設計													
	② 工事発注・監理監督													
	③ 漏水調査													
	④													
	⑤													
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標				
	老朽化率		老朽管／水道管全延長		%	目標	25	25	25	0				
						実績	27	29						
	有収率		有収水量／配水量		%	目標	72	72	72	90				
						実績	71	71						
	基幹管路耐震適合率		耐震管等／基幹管路		%	目標	38	38	38	100				
						実績	36	37						
	予算費目	会 計	水道事業会計				款	1	資本的支出	項	1	建設改良費	目	1
DO			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考					
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	44,100 千円		36,585 千円		65,400 千円							
		その他特定財源	千円		12,232 千円		千円							
		一般財源	15,719 千円		47,894 千円		58,670 千円							
		計(A)	59,819 千円		96,711 千円		124,070 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	2,000 人	12,085 千円	2,000 人	12,119 千円	2,000 人	11,905 千円						
		会計年度任用職員職種												
		会計年度任用職員工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円						
全体事業費(A+B)		71,904 千円		108,830 千円		135,975 千円								

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明	二次評価				
必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	老朽管の継続使用は、漏水の可能性を高め有収率に大きく影響します。また、給水の不安定化の要因や修繕費の増大に繋がります。老朽管の布設替は、給水体制の強化や経営安定化を進める上で必要不可欠なものです。	☐ 少ない	☒ 大きい					
	2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある					
	3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない					
	4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない					
有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	老朽管の更新により、漏水を未然に防止するとともに、耐震管への布設替により、災害時の水道の安定供給体制が強化されることから、有効性の高い事業です。	☐ いえない	☒ いえる					
	2. 事業内容のマネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる					
	3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない					
	4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる					
達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	指標の設定目標に届いていないものもありますが、事業は計画的に推進されています。	☐ 目標に比べて劣っている							
	2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない							
	3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している							
	4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している							
効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	老朽化の進行している管路から優先的に布設替を行っており、効率的に事業が推進されています。	☐ 高い	☒ 適当					
	2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない					
	3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない					
	4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない					
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		
	当面の課題	老朽化の進行している管路の状況の把握、漏水調査等を継続的に行い、必要な修繕を実施しながら、耐震管等への布設替を進める必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	老朽管路について、台帳・図面等のデータをもとに現地での調査・確認を行い、漏水の発生箇所、修繕の状況等を勘案し、より効率的で着実な事業計画の推進に努めます。					対象管路の抽出、優先順位の設定及び管路の重要度などを勘案し、計画的な布設替えを進めます。また、漏水箇所を早期に発見し修繕を行い、有収率の向上に努めます。					
委員会指摘事項											

PLAN	No.	37	—	3	基本事務事業名	農業集落排水事業管理・徴収	事務事業名	農業集落排水事業管理・徴収	公的関与	6	シート作成日	令和6年6月25日		
	部局名	水道部			課名	業務課		主務課長名	吉成 永吾		シート作成者名	尾崎 啓蔵		
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☒ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(6)水道・排水処理の充実				☒ 1 該当		平成 17 年 ~		令和 年 ☒ 期間設定なし		
		主要施策		(5)汚水処理施設の適正管理				☐ 2 非該当		根拠法令等		農業集落排水事業の設置等に関する条例		
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		農業集落排水供用区域(一条西地区・柿原東地区)・農業集落排水施設利用者										
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	農業集落排水使用料の収納率100%を目指します。									
				今年度	使用料滞納者に対して督促、徴収を行い未収納額を減らします。									
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 余剰汚泥引抜きの削減に努めます。													
	② 使用料の適正な賦課・徴収に努めます。													
	③ 口座振替の普及を促進します。													
	④ 督促状、催告書による通知で納付を促すとともに、個別に訪問し、収納率の向上に努めます。													
	⑤													
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標				
	農業集落排水施設利用者	農業集落排水使用料収納率(現年度)	%	目標		100	100	100	100					
					実績	98.4	82.5							
	農業集落排水施設利用者	農業集落排水使用料収納率(過年度)	%	目標		100	100	100	100					
					実績	23.2	19.3							
				目標										
				実績										
	DO	予算費目	会 計	農業集落排水事業会計			款	1	農業集落排水事業費用	項	1	営業費用	目	1
		令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考						
直接事業費		国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	49,450 千円		51,121 千円		46,053 千円							
		計(A)	49,450 千円		51,121 千円		46,053 千円							
人件費(B)		正職員工数・経費	0.700 人	4,230 千円	0.700 人	4,242 千円	0.700 人	4,167 千円						
		会計年度任用職員職種												
	会計年度任用職員工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円							
全体事業費(A+B)		53,680 千円		55,363 千円		50,220 千円								

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	施設の維持管理と汚泥引抜きが同一業者であるため、余分な汚泥採取がないか確認しています。施設の管理運営費に分担金と使用料を充てているため、使用料の適正な賦課及び徴収は重要であります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	使用料の納入方法について、口座振替を推奨しています。現在8割以上の利用者が口座振替を利用していることから、例年は収納率98%以上が保たれています。今年度は会計を変更することに伴い、収納率が低くなっています。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマナー化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	余剰汚泥引抜きの経費について、適正な単価や回数等を検討しコスト削減を考えていきます。収納率については、現年度は目標に近づいていますが、過年度については、高額滞納者が多いため、個別に対策を考えていきます。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☒ 高い	☐ 適当	徴収方法について、個別訪問徴収だけでは効率的に徴収ができないため、違う対策を考え、収納率向上に努めていきます。	☒ 高い	☐ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☒ ある	☐ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		3	4	3	2	B	3	4	3	1	B
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			
	当面の課題	少額滞納者に対しては、督促状や催告書による通知で納めてもらえますが、高額滞納者に対しては、個別に対策を講じる必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	高額滞納者に対しては、施設の使用制限等の対策を行い、集合住宅等の賃貸物件については、共益費として使用料を徴収できないか検討します。					目標の収納率が達成できるよう、口座振替の推奨及び過年度分の収納率向上に取組みます。				
委員会指摘事項											

PLAN	No.	37	—	4	基本事務事業名	農業集落排水事業工事	事務事業名	農業集落排水事業工事	公的関与	6	シート作成日	令和6年6月25日		
	部局名	水道部			課名	業務課	主務課長名	吉成 永吾		シート作成者名	尾崎 啓蔵			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(6)水道・排水処理の充実				☒ 1 該当		平成 17 年 ~	令和 年	☒ 期間設定なし		
		主要施策		(4)生活排水対策の計画的推進				☐ 2 非該当		根拠法令等	農業集落排水事業の設置等に関する条例			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		農業集落排水供用区域(柿原東地区・一条西地区)										
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	適正な施設管理を行うとともに処理水の改善及び地震等への減災機能強化を図ります。									
				今年度	全ての処理施設の維持管理計画を策定し、機能向上のための整備事業を計画します。 また、施設から排水される汚泥の量を抑えながら、処理水の水質保全を行います。									
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 処理施設の更新工事を実施し、機能向上を図ります。													
	② 適正な施設管理を行い、汚泥負荷量を安定させます。													
	③ 施設から排除される処理水の水質を安定させます。													
	④													
	⑤													
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標				
	BOD汚泥負荷		曝気槽の単位MLSS当たり、1日に処理されるBOD量		kg/m ³ ・日	目標	10	10	10	10				
						実績	7	4						
						目標								
						実績								
						目標								
						実績								
DO	予算費目	会 計	農業集落排水事業会計			款	1	資本的支出	項	1	建設改良費	目	1	建設改良費
			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考					
	直接事業費	国庫支出金	400 千円		5,300 千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	4,300 千円		1,400 千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	千円		千円		千円							
		計(A)	4,700 千円		6,700 千円		0 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	3,021 千円	0.500 人	3,030 千円	人	0 千円						
		会計年度任用職員職種												
		会計年度任用職員工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円						
	全体事業費(A+B)		7,721 千円		9,730 千円		0 千円							

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明	二次評価				
必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	施設の老朽化により、ポンプや機器類等に負担がかかっているため、機器類等の更新が必要です。	☐ 少ない	☒ 大きい					
	2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある					
	3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない					
	4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない					
有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	ポンプや機器類等を更新し、機能向上を図ることにより、水質保全を図ります。	☐ いえない	☒ いえる					
	2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる					
	3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない					
	4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる					
達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	BOD汚泥負荷の目標は達成できており、水質は良い状態で安定しています。	☐ 目標に比べて劣っている							
	2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない							
	3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している							
	4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している							
効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	処理水の排出を適正に行っています。また、施設を整備し、ポンプや機器類等を更新することにより、水質改善を図り、更に、水環境の向上に努めてまいります。	☐ 高い	☒ 適当					
	2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない					
	3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない					
	4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない					
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		3	4	4	2	A	3	4	4	2	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			
	当面の課題	施設が老朽化に伴い、維持管理費用が増加しています。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	補助金や起債を活用し、老朽化した機器類等の更新を図ります。					機器類の老朽化が進行しており、点検等を行うことにより長寿命化に努めます。					
委員会指摘事項											

PLAN	No.	37	—	5	基本事務事業名	飲料水供給施設事業	事務事業名	飲料水供給施設事業	公的関与	3	シート作成日	令和6年6月28日		
	部局名	水道部			課名	業務課	主務課長名	吉成 永吾		シート作成者名	古谷 昌寛			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(6)水道・排水処理の充実				☒ 1 該当		令和 年	~	令和 年	☒ 期間設定なし	
		主要施策		(1)安全な水道の確保				☐ 2 非該当		根拠法令等	飲料水供給施設の設置及び管理等に関する条例			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		市内飲料水供給施設に属する地区住民と水道未普及地域住民										
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	安全でおいしい水の安定供給 水道未普及地域の解消(上水道配水区域との地域間格差の是正)										
			今年度	施設の維持管理										
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 施設の点検・維持管理													
	② 施設の修繕及び非常時における給水作業													
	③ 指定管理者との連絡調整													
	④ 小規模水道施設組合の施設修繕(補助)等													
	⑤													
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標				
	施設点検回数		施設の運転状況の点検確認		回	目標	50	50	50	50				
						実績	72	105						
						目標								
						実績								
						目標								
実績														
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	9	飲料水供給施設費
			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考					
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	3,519 千円		2,967 千円		4,875 千円							
		計(A)	3,519 千円		2,967 千円		4,875 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	3,021 千円	0.500 人	3,030 千円	0.500 人	2,976 千円						
		会計年度任用職員職種												
会計年度任用職員工数・経費		人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円							
全体事業費(A+B)		6,540 千円		5,997 千円		7,851 千円								

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明		二次評価			
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	日常生活において、水の重要性は極めて高くなっています。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	指定管理を行う地元管理組合では、戸数の減少や高齢化により緊急時だけでなく、通常の施設の維持管理においても困難になっています。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマナー化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	引き続き事業を推進します。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☒ 高い	☐ 適当	現状において、効率性を求めることは困難です。	☒ 高い	☐ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			
	当面の課題	集落の過疎高齢化、施設の老朽化により、今後ますます、管理運営は困難になります。渇水時等事故発生時には、地元管理組合だけでは対応が困難であり、業務課が対応しています。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	地元管理組合と協力して、簡易な維持管理の方法等を研究して、水の安定供給に努めます。					市内でも特に人口減少の著しい地域でありますので、加入世帯も減少しています。そのため地元管理組合において施設の維持管理が難しくなっています。しかし、生活に欠かすことのできない事業であることから、地元管理組合と連携・協議しながら維持管理に努めます。				
委員会指摘事項											